

評価実施年度	令和 6 年度	学校名	大分県立 日田林工 高等学校	
学校教育目標	林業・工業の2学科を設置する専門高校であり、変化の時代にも通用する産業人材の確保・育成につながる教育やものづくり教育を通して、地域社会の持続的発展や活性化に主体的に貢献できる力を育成します。			
重点事項	評価項目	評価の観点	評価	今後の改善方法(学校作成)
カリキュラム・マネジメントの確立	学校教育目標	○的確な学校経営ビジョンが策定されていて、学校教育目標の達成に資するために重点目標の焦点化が図られ、校長のリーダーシップの下、全教職員による教育活動が展開されているか。	・極めて良い。 ・学校経営ビジョン等は職員間で共有されており、校長のリーダーシップを実感した。 ・学校経営ビジョンの実現等に向け、公務員志望の生徒を対象とした学校設定科目の新設などで対応している。	・引き続き、校長のリーダーシップの下、学校経営ビジョンについて明確化と具体化に努め、全教職員と共有を図りたい。 ・公務員希望者のための学校設定科目を新設するなど、学校の特色をさらに強化するための施策を講じたい。
	P D C A サイクル	○重点目標を達成するための焦点化された取組指標や達成指標等が適切に設定され、機能しているか。 ○取組指標や達成指標等の評価・検証を計画的に行い、以後の実践に直ちに反映させるなどP D C A サイクルが確立しているか。 ○予期しない課題が判明した時点で、その解決に向けて校内分掌が速やかに機能するように、組織的な責任・運営体制は整備されているか。	・極めて良い。 ・学校の課題に対して、次学期に特に力を入れる事項を明確にしている。 ・また、素早い情報共有と共に、全教職員で解決に向けて取り組んでいることは高く評価できる。 ・分掌会議や学科主任会議等を授業時間内に設定し、課題の解決が図られていることは称賛に値する。	・「誰が、いつ、どのくらいの頻度で何をするのか」をさらに明確にし、数値目標による客観的評価に努め、短期で検証・改善に努めたい。 ・年度を跨ぐ検証・改善により、継ぎ目のないPDCAサイクルの確立に努めたい。
	社会との連携・接続	○「開かれた教育課程」の理念に基づき、育成したい生徒像が家庭及び地域と共有されているか。 ・情報の伝達・公開を適切に行っているか。(ホームページ・SNSの活用、学校便りの発行等) ・生徒・保護者の学校への満足度や要望を把握する取組を行っているか。 ・地域内外の関係機関との連携や人材を活用しているか。	・良い。 ・地域活動への積極的なボランティア参加や伝統文化の継承等に熱心に取り組んでいる。 ・上記の取組は郷土愛、シビックプライドの醸成に大いに寄与している。 ・生徒や保護者へのアンケートを適宜行い、対応を検討している点は評価できる。 ・SNSによる投稿を積極的に行っている点は好感が持てる。 ・今後はターゲットに応じて何を伝えると効果的なのか、生徒が主体的に研究してもらいたい。	・清掃ボランティアや地域の行事への積極的参加をさらに進め、地元により愛される学校を目指したい。 ・学校の魅力を生徒自ら発信しようとする態度の育成に努めるため、生徒によるSNS発信をさらに推進したい。
主体的・対話的で深い学びの実現	授業の活性化	○授業の活性化が図られているか。 ・学ぶことに興味や関心を持ち、見通しを持って取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。 ・授業のねらいに応じて、言語活動の充実を図ることで、「対話的な学び」が実現できているか。 ・授業の中で、知識を相互に関連付けて深く理解したり、情報を精査して自己の考えを形成したりする「深い学び」が実現できているか。 ・ICTを活用して、授業の効率化や授業の振り返りにつながっているか。 ○総合的な探究の時間や課題研究の学びとその他の教科・科目の学びが有機的に結びついているか。 ○生徒の学習習慣が定着し、学力及び学習意欲の高まりがみられるか。	・良い。 ・授業において、黒板の左上に「本時の目標」を明示していることは特筆すべき点である。 ・しかし、授業観察ではこれが実施されていない場合も見受けられ、改善が望まれる。 ・生徒との対話を通じ、主体性を引き出す授業が行われていたが、振り返りまで徹底できるとなお良い。 ・授業改善に消極的な教員に対しても、積極的な呼び掛けを行っている。 ・上記により、互見授業への参加率を大幅に上げたことは高く評価できる。 ・生徒対象の授業アンケートには、アンケートの回答が成績評価に影響することはない旨を明記すべき。 ・上記により、生徒が安心して率直に回答できるよう工夫する必要がある。	・授業改善に係る学校全体での共有事項の実践徹底を図り、さらなる授業の活性化を図るとともに、授業アンケートの実施方法について改善したい。 ・コーチングを意識した主体的で対話的な深い学びの授業実践をテーマとし、生徒に深い思考や気づきを促す発問の工夫、振り返りの徹底を改善のテーマとし、互研授業・授業研究会で醸成したい。
安全・安心な教育環境	いじめ・不登校等の対策	○計画的な面談・相談を通して、個々の生徒の状況を理解した上で、生徒指導が学校の組織を挙げて行われているか。  ○いじめ・不登校防止対策に取り組む体制が整備され、いじめ・不登校問題に対して適切な対応がなされているか。	・極めて良い。 ・初期対応の大切さが理解されており、組織的な対応が徹底されている。 ・校則の改定は、生徒会と関係教員が話し合った上で進められており、生徒会活動の活性化に繋がっている。 ・しかし、生徒の要望が却下されることも多く、生徒への指導と自由さの両立の難しさを感じた。 ・卒業生相談室で、卒業生から相談を受け付け、企業と連携して解決を試みていることは高く評価したい。	・引き続き、規範意識をもち、自他を敬愛して自律的に行動できる力を育成するための端正な身だしなみを徹底したい。 ・生徒会と協同で「生徒指導心得」の見直しを図る機会を設定し、生徒の頭髪服装に対する意識を高めるとともに、自己管理意識の醸成を図りたい。
	安全管理	○学校施設等の安全点検や通学の安全指導及び教職員・生徒の安全対応能力の向上を図るための取組が定期的に行われているか。  ○学校事故や非常災害など、緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理体制が機能しているか。また、生徒の安全を確保するための具体的取組が行われているか。	・良い。 ・安全への意識啓発を行っていることは高く評価できる。 (スタントマンによる自転車交通安全教室の開催や交通事故被害者遺族の講話) ・危機管理マニュアルや緊急防災計画の策定だけでなく、その実践(研修)も行われている。 ・災害の多い日田市での危機管理体制が機能している。	・危機管理マニュアルについては不断の改善に努め、交通安全教育についてはヘルメットの正しい着用・法令順守についてさらに強力に取り組みたい。 ・こころと身体健康増進の意識と他者を思いやる意識を醸成する教育を推進するため、いじめ防止対策のさらなる強化と多欠生徒の情報共有・早期対応に努めたい。
信頼される学校づくり	働き方改革	○生徒と向き合う時間を確保し、生徒に対して効果的な教育活動を行うことができるよう、働き方改革が推進されているか。 ・会議・分掌業務、学校行事の精選、見直しを図られているか。 ・組織的な指導・運営体制の構築と学校の活動方針の徹底等による部活動改革に取り組んでいるか。 ・情報共有の効率化や校務情報化の推進など、ICTの効果的な活用によって業務改善が図られているか。	・教員の時間外勤務が定量的に管理されている。 ・しかし、土日の部活動の参加を主な要因として超勤時間が増加している。 ・上記について、外部指導者の導入や広域連携等の工夫が求められる。 ・保護者から土日の部活動を望む声があったとしても、担当教員の負担にも配慮する必要がある。 ・土日は生徒の家庭学習の時間に充てるよう高校側が毅然として説明し、保護者の理解を得ることが重要。 ・朝礼のスリム化やアンケートの電子化等により、「労力対効果」の徹底が図られている。	・労力対効果を考え、より効果のある活動の取捨選択を常に考えて改革との両立を図りたい。 ・目標管理シートの自己目標に各職員が記載し、中間・期末それぞれの時期で自己評価を行うことにより、勤務時間縮減に向けた意識の醸成を図りたい。
	学校課題の解決に向けた取組等	○定員確保に向けた取組の工夫がなされているか。  ○スクール・ミッション及びスクール・ポリシーの達成に向けた教育活動が計画されているか。	・中学校への出前授業やSNSの新設等により、定員確保に向けた対策を講じている。 ・保護者から要望があった。公務員志望生徒を対象とした学校設定科目の新設は大いに評価できる。 ・上記についての保護者向けのPRを期待する。	・生徒自らが地域との連携を図り、小学生を対象としたOーLabo(ものづくり教室)、出前授業やボランティア活動等への積極的意識を醸成したい。 ・定員確保に向け、中学校への高校説明会やメディアを活用し、引き続き学校の魅力発信に努めたい。
総合評価	<p>・床や壁に木材が多用された校舎は、本校の財産の一つである。校内は清潔に保たれ、生徒が積極的に挨拶する等、「開かれた学校づくり」ができていと感じた。</p> <p>・生徒ヒアリングでは、全ての生徒が「進路相談や就職活動のサポート等の支援が手厚い」と答えており、キャリア教育や進路指導の充実が図られている。</p> <p>・また、管内の各中学校での高校説明会や出前授業で、そうした学校の良さを十分にアピールしている。</p> <p>・専門性や職業文化が異なる教員を束ねて成果を出すために、校長が教頭や主幹教諭、事務長と共に、組織的に学校経営を行う体制を構築することや全職員が意識や取組の方向性を共有することが重要だと感じた。</p> <p>・全国的にも数少ない林業科を擁し、建築土木や機械、電気の専門教育を着実に実践する伝統校として、誇りをもって更なる学校改革を続けてほしい。</p>			
校長コメント(次年度の改善策)	<p>・学校の魅力発信について、中学校への出前授業のさらなる取組を強化し、インスタグラム等魅力的な発信を充実させたい。</p> <p>・基礎学力の向上について、さらなる授業改善に加え、進路希望に応じた個別最適な取組を図りたい。</p> <p>・いじめの早期解決と不登校生徒への組織的な対応強化を図りたい。</p> <p>・様々なキャリア教育の取組が実施できているが、保護者へ十分に伝わっていない現状を踏まえ、保護者に対する広報活動の強化も図りたい。</p> <p>・資格取得については、大きな成果をあげており、今後は指導者の後継者育成を図りたい。</p> <p>・働き方改革については、週休日における部活動指導時間が大きな課題となっているため、衛生管理委員会にて、超過勤務に係る規定を設置し、超過勤務時間の縮減を図りたい。</p>			